

第1回推進会議結果の概要・まとめ

9月17日（火）に行われた第1回南三陸復興計画推進会議結果をご報告します。

1. 町長あいさつ(要旨)



- 震災から2年6ヶ月が過ぎ、昨年は「復興元年」、今年度は「生活再建・住宅再建元年」と位置付け、災害公営住宅の建設、防災集団移転促進事業用地の造成工事など、復興計画に基づく事業を一步一步進めています。
- しかし、町民感情としては未だ復興が進んでいるとは言えない状況にあり、計画策定当初に予測できなかった町を取り巻く環境の変化が明らかになってきています。
- 日常的で身近な話題から議論を始め、復興が進むにつれて見えてくる新たな課題についてハード、ソフトどちらに偏ることなく検討していただきたいと思います。

2. 委員長あいさつ(要旨)



- 震災復興計画を町の皆さんと策定しましたが、2年半が過ぎ新しい課題、新しい流れが起きていると思います。
- 今回、改めて復興を見据え、社会の環境が変化していくなかで、町の将来をどのようにしていくかを皆で考え、新たな活動が生まれてくるのが大切だと思います。
- 町の皆さんと役場の皆さんが知恵を出し合って率直に意見をぶつけあいながら、問題解決の手法を持つことが、町の未来に向けて重要なことと考えます。
- 皆さんの思いやご意見を率直にぶつけてください。本日参加した先生方や役場、事務局の方も皆さんのご意見から、次の新しい南三陸町の手がかり、道筋を見つけていきたいと考えていますのでよろしくお願いします。

3. 会議の目的と進め方(説明の概要)

<会議の目的>

- 皆さんは震災復興計画を作った時点と今は違った思いが出ていると思います。
- その今の思いを踏まえ、日常の身近なところで、一人の住民の立場からご議論いただき、町がやること、皆さんでやっていただくことを掘り下げてください。

<会議の進め方>

- 3グループに分かれて、ご議論いただきます。なお、先生方がアドバイザーとして入ります。進行・記録を事務局が行いますので、グループごとに進めてください。

3. 各グループの検討テーマに関する討議結果

1) グループAの発表内容（要旨）

「住まい、心と体の健康、まちのアイデンティティ、収入」について発表がありました。（朱書きは事務局がキーワードと考えたものです。）



- （検討するテーマを）住まい、心と体の健康、まちのアイデンティティ、収入・なりわいと4つに分けました。
- 「住まい」についてですが、家族のありがたみが震災でわかったという話がありました。また、仮設住宅とか災害公営住宅がなかなか進まず今後が不安だということで、コミュニティ再生の仕組みを話したらどうかという意見がありました。高齢者や将来の子供達のためにも住まいが一番重要ではないかという話がありました。
- 「心と体の健康」についてです。学校の統合とか、避難により転々と変わらざるをえなかったり、ご遺族を亡くされたり、いろんな形で心に負担を抱えている方々のため、癒しの空間があったらよいということです。
- 「まちのアイデンティティ」です。南三陸町は何がよいかというと森、里、海のつながりを小さな所で全部味わえるということだと思っています。
- そういう自然を学べる環境と受け皿を今から残していくと発信するということが、人口流失を止め、若いお母さん方が出ていってしまうことにストップをかけられる可能性もあります。
- それから、歴史、防災、教育に、復興の過程で多くの住民が参加するという事が今後のまちづくり、人づくりにつながると思います。
- こういった取組をしていく中で新しい役割、「新しい仕事」が出てくるのではないかと思います。

グループAの意見とりまとめシート

収入、雇用確保

- ・ 南三陸に残りたくても雇用が少なく、十分な収入がない。
- ・ 町民を社会資源として残す。

収入
なりわい

安心して
暮らせる
まちづくり

住まい

家族

家族

- ・ ありがたみがわかった
- ・ 離ればなれ

心と体の健康

健康

- ・ これがないと始まらない

癒し

- ・ 学校統合でなくなる
- ・ 亡くなった方々のことも考えるから復興を

- ・ 前に向けてばかり
- ・ 学校も統合→対象になった方々の気持ちを致し方ないではすませたくない

暮らしに関するテーマ

災害公営住宅ができるまでの間と建てからのコミュニティ再生のしくみづくりを住民参加で話したい

暮らし

- ・ 仮設→長屋の良さ
- ・ 公営住宅
- ・ 待っている時間を活かす

住宅や住まい

- ・ 将来の子供達のために
- ・ 高齢者も住みやすく

住居、住まい

- ・ 高齢者多い
- ・ 将来の子供達の生活難
- ・ フラッシュバック

「椿」を中心にしたまちづくり
生活環境

災害公営住宅について

- ・ 進まぬ復興に対して、目に見える復興がない為今後が不安

災害公営住宅

- ・ どうなっているの？同じに見える
- ・ いつまで仮設
- ・ 本当はここにいたいのに…

町民が自ら参加する
まちづくり

女性が
楽しい町

まちのアイデンティティ

環境に関するテーマ

自然と共生するまちづくりというシンボルプロジェクトがみえるように自然を学べる環境と受け皿を事業計画の段階から考えたい
希望 →人づくり

歴史防災教育

復興の適性になるべく多くの方が参画することが大切地名から紐解く防災教育を子供達から

グループA

2) グループBの発表内容（要旨）

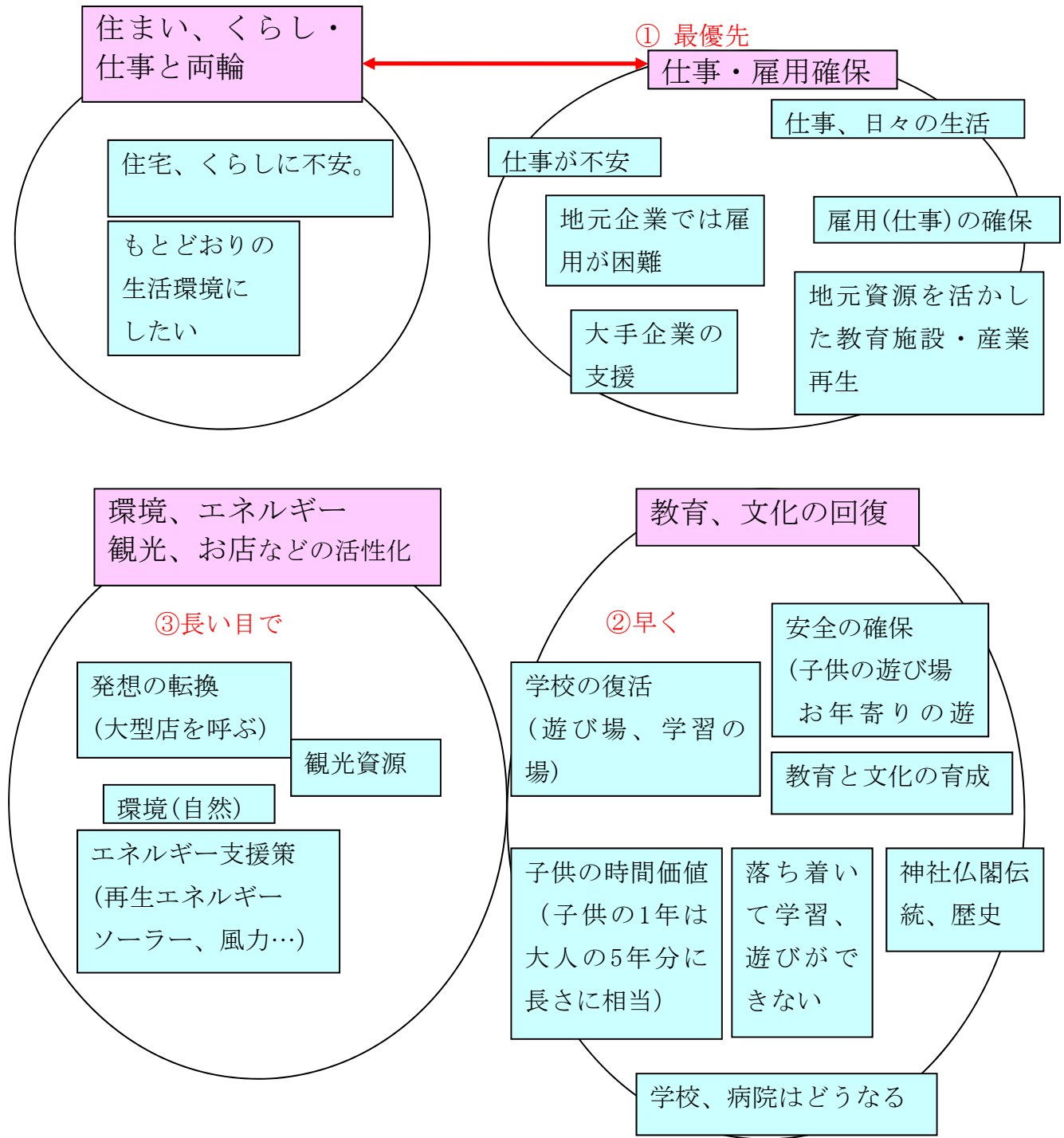
「仕事と住まいや暮らし、発想の転換、教育・文化、再生エネルギー・観光活性化」について発表がありました。（朱書きは事務局がキーワードと考えたものです。）



- 第一に仕事、働く場所の確保です。「仕事と住まいや暮らし」は、両方そろっていないと前を向けないだろうということで、この2つはセットで考えていくべきという意見が多く出ました。
- 仕事も、地元の資源を生かしたものや地域資源を用いて南三陸を再生していく部分があれば、外部の力を借りていくのも大事じゃないかという意見が出ました。いろんなやり方があって「発想の転換」というのも大きなキーワードとしてあげられました。
- 次に重要な視点として、「教育・文化」といったキーワードを挙げました。大人の1年と子供の1年、これは全然意味が違うんじゃないか、5歳6歳の時にお祭りが経験できたか出来なかったのか、そういう経験が大人になって生きてきて地域の文化として引き継がれることが重要ではないか、という意見です。
- 少し長い目を見た議論になりますが、「再生エネルギーや観光活性化」なども今までと同じ観光資源を生かしていくのか、新しく掘り起こしていくのか、ここでも「発想の転換」というのがキーワードとなるという意見がありました。
- これらを全部合わせて、「町としての活力の向上」、これを全体の目標に掲げたいということがBグループの意見となりました。

まちとしての活力向上

全体目標



グループB :

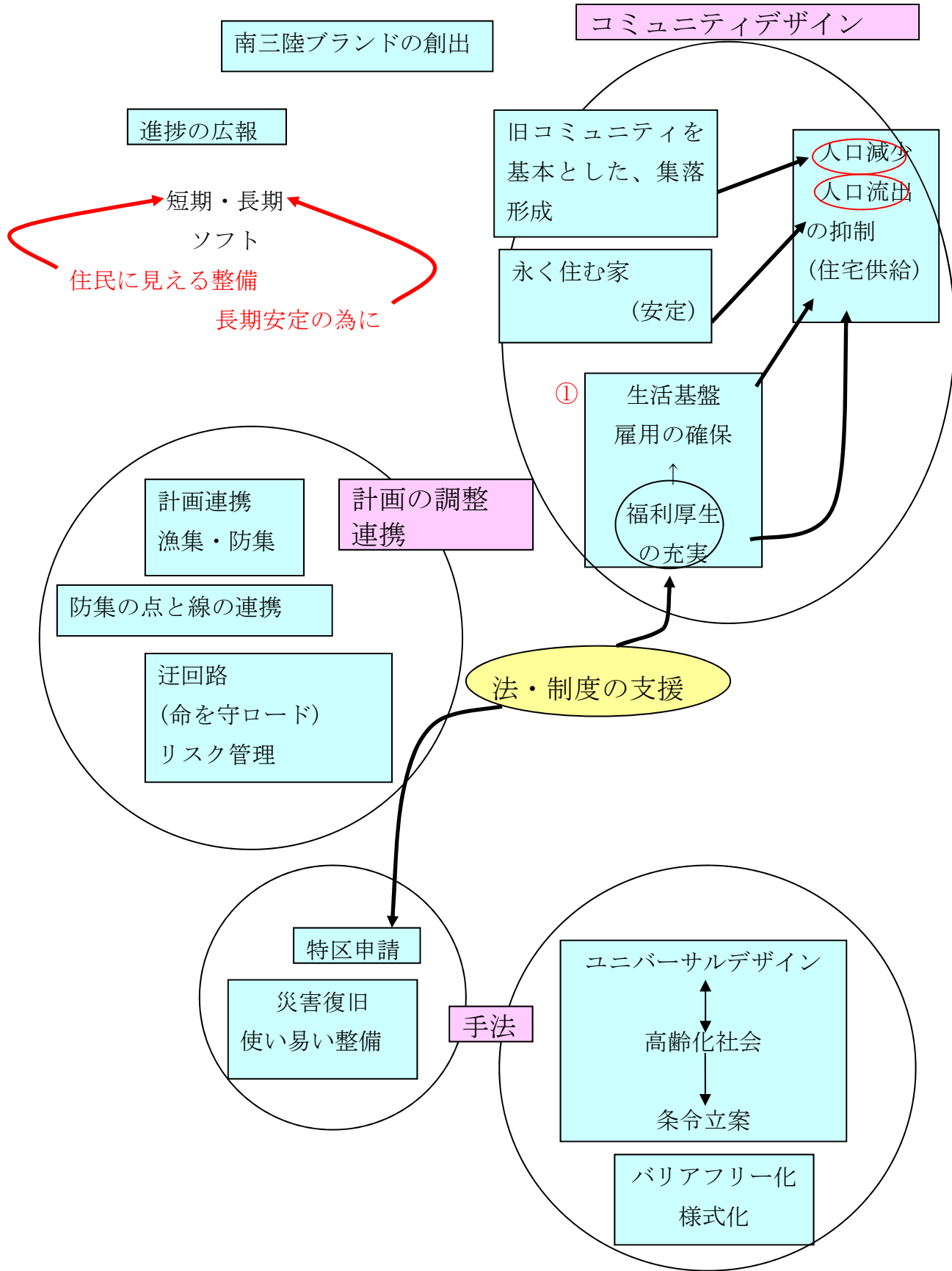
3) グループCの発表内容（要旨）

「人口減少・人口流出を止める、住む場所を確保し住環境を整える、雇用の確保、復興をわかりやすく伝える、全体のグランドデザイン、ユニバーサルデザイン、ブランドデザイン」について発表がありました。（朱書きは事務局がキーワードと考えたものです。）



- 核となるテーマということで「人口減少と外へ出ていく人達をどうやってくい止めるのか」が議論になりました。
- 一つ目が人口減をくい止めるため「自分達が住む場所を確保し住環境を整える」です。生活の基本となる所が出来ないと他を考えることも難しいこともあります。
- 二つ目は「雇用の確保」です。産業再生をきっちりやっていかないといけないです。企業誘致や特区申請などは行政にリードしてもらう必要があると思います。
- 短期的には、復興が進んでいる事を早く分かり易く伝え「人口流出・減少」をくい止めることができるのではないかという意見がありました。
- 志地川や歌津・戸倉で、各種事業があり、各々で様々な議論がされています。それを束ね、全体のグランドデザインを考えて進めていかないと行き詰まってしまう。今がその最後のチャンスであり短期的課題であるという意見が出されました。
- 今後様々な建築設計や各種事業を進めて行く際に「ユニバーサルデザイン（バリアフリー）」に配慮して欲しいという意見がありました。
- ブランドデザインについて、六次産業化の視点で『南三陸ブランド』をこれから構築していく必要があるとの議論になりました。

グループCの意見とりまとめシート



グループC

4. 学識者委員・有識者委員の講評ととりまとめ

1) 平野先生の講評

平野先生から講評をいただきました。

- どンドン意見が出ている会議っていうのは出ていて楽しいものです。今日は大変良かったです。私は土木屋ですのでその視点でいいます。
- Aグループで出た「アイデンティティ」が重要ですが、「南三陸らしさ」って何だろうって考えると、皆さんが慣れ親しんでいる海ですとか、山とかを普通の生活の中で見られる空間を作るこれが実は大事だと思います。決めるタイミングとしてはたぶん最後なので、そこは是非やっていきたいと個人的には思っています。
- その他では「産業」です。産業をどう元気にしていくか、六次産業って、実はどこの被災地もいっています。観光をやって交流人口を増やそうというのは大事な発想なので進めていただきたいですが、交流人口を増やすぞ、観光でもうけるぞ、といって成功した事例がありません。成功しているのは、「住民の皆さんがこの町住んでいて良かったと思えるプライドで、良い生活環境、住環境」を作ることです。

2) 稲葉先生の講評

稲葉先生から講評をいただきました。

- どのグループも「人口減少・流出」の話をしていました。10年前にこのぐらいの人口になっているという人口になっているようです。少しずつの環境変化には対応してきましたが、今回の急な変化に対し皆さんが動こうとされているのがわかります。
- そのなかで住まいを持ち、ここで仕事をしていこうとことが重要と考えました。
- 被災地の中でも「南三陸を訪れる人が多い」です。子供も含めて、また来てもらいたい、と思ってもらうことが重要と思います。
- ここにいる人達にまた会いに行こうと思えるような所にすることが、仕事にも観光にもつながって行くと感じました。仕事については「雇用の場を創る」という動きも大切だと思っていて、仕事がないのであれば、仕事を創るという観点から世の中を見てみると、また違った観点でいいアイデアが出てくると思いました。

3) 町長の感想

サプライズで、町長に感想をいただきました。

- せっかく皆さんが議論されているところで時間切れとなり申し訳ないです。
- 今回の東日本大震災で南三陸町は人々の「ネットワーク」と支援で何とか歩んでこられたと思います。これからも原点は人という財産をいかに作るか、あるいは人という財産をいかにこの町に呼び込むかと言う事と思います。
- 悲しい思いを胸に復興を進めています。ボランティアの方数十名が町に住み、懇親会の案内を受けるといううれしい知らせもありました。
- 村井知事から南三陸町はDCキャンペーン*の優等生といわれており観光客は83%まで回復しました。「オール南三陸」でいきたいので皆さんよろしくお願いします。

注*) DCキャンペーンとは、デスティネーションキャンペーンの略で、観光関係者や自治体とJRが一体となって展開する大型観光キャンペーンです。宮城県では、平成25年4月1日から6月30日までの3か月間行われました。

4) 宮原委員長のまとめ

3つのグループ発表の結果をもとに
検討結果をまとめていただきました。



- 今回のテーマを3つから4つ決めておきたい、というふうに思っています。
- 1つは、「人口減少や流出をいったいどうしたらいいのか」というのがありました。
- その次に「住まい」というキーワード、これが全部のチームからでました。やはり住まいを確保する、住まいの見通しを立てていくことが、重要と思います。
- 「働く場、雇用の問題」も皆さんから出ておりました。グループBから出たように、住まいと仕事は不可分な所があり、セットで考えていく必要もあります。
- 「発想の転換」をグループCやAの皆さん、稲葉先生からいただきました。例えば暮らし方を変えて見ると新たな役割や仕事をねらえないだろうかと思えます。
- それからアイデンティティや教育、文化です。「魅力的な町になって行く」部分をしっかりと考え、教育も今から考えることが出来るのではないかと思います。
- 「復興の見える化」を町民サイドからどういうふうに考えたらいいかという事も議論の中でやっていく必要もあると思いました。
- これらのテーマに、町長さんが言われた「人と人をつなぐ」ということを重ねていけばよいと思います。町の人、新しい人、いろんな人達がこの町でどう生かされていくか、という所を考えながら議論していけばいいかなと思います。

5) 第一回推進会議の討議結果のまとめと第2回推進会議のテーマ案について

最後に宮原委員長にまとめいただいたテーマを模式化すると、「人口減少・流出に対する対策」が各テーマの柱になっていると考えられます。各テーマの議論に早くいききたいところですが、始めに「人口減少や流出がどうなっているのか」、また、「どう困るのか」を皆さんと共有してから、各テーマの検討に入りたいと思います。

